2026年度 第8回マッチングワークショップ（MWS）実施報告

本年度第8回目のMWSは、10月17日（土）に14名の参加者を迎え、実施しました。

今回は 3〜4 名ずつ 4 つのグループに分かれ、ビブスを着用の上、色ごとに着席してもらいました。開始前には、参加者に緊張した様子が見られ、「開始まで自由に会話を楽しんでください」と声をかけましたが、あまり状況は変わらず、少し緊張感のある雰囲気の中で開始時刻を迎えました。

【オープニング】

まず、進行担当（ファシリテーター）から、本プログラムは入学試験ではなく、湘南工科大学のアクティブラーニングとの相性を確認する場である、という MWS のコンセプトについて説明を行ったのち、緊張をほぐすために約 10 分間のアイスブレイクを実施しました。参加者同士の交流を促すことで開始時には緊張した様子だった参加者も、徐々に表情が和らいでいきました。

【前半グループワーク】

今回のテーマは、湘南の海岸におけるごみ問題に関するものでした。参加者は事前に準備してきた内容をグループ内でひとり 2 分間ずつの発表を行い、その後のディスカッションでは、和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。

メモを取ることに集中し、メンバー同士のやり取りが少ない様子だったため、互いのメモを見せ合い、意見や感想を伝え合うよう促しました。当初は緊張した様子が見られましたが、議論や交流を通じてその緊張も和らぎ、徐々に意見交換が活発になっていきました。更に、現在の社会課題に対して、既存の技術や新たな仕組みを組み合わせながら解決策を考える場面も多く見られました。
途中でスマートフォンを活用して必要な情報や根拠となるデータを精査する時間を設けたことで、調べた情報を踏まえながら、自分たちの意見を整理し、後半の発表内容を調整する姿が見られました。

【後半グループワーク】

休憩後は、ビブスの番号をもとにグループを再編成し、前半のグループワークでまとめた内容を新しいグループ内でひとり 2 分間ずつ発表しました。参加者は前半グループの代表として、自分たちの考えをわかりやすく伝えようと努めていました。また、各発表後の 2 分間の質疑応答では、発表内容を掘り下げる質問や、活発な意見交換が行われました。

【クロージング】

振り返りシートの記入後、アンケートに答えた方から流れ解散としました。さまざまな学校から集ま

った同世代との議論を通じて、本学が重視するアクティブラーニングの特徴や学びのスタイルを体感し、その相性を確認してもらえたようです。前半・後半のグループワークを通じて参加者同士の交流も深まった一方で、慣れないディスカッションに最後まで緊張が残る参加者も見られました。

終了後には、数名の参加者から、今回のテーマは興味深く、議論しやすかったという感想が寄せられました。また、参加者同士が会話を続ける様子も見られ、それぞれに今回の活動を振り返る時間となったことがうかがえました。

次回の MWS は、11 月 7 日（土）に開催予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。

湘南工科大学　総合文化教育センター
野呂昌生